



「開かれた学校づくり」から発信

このコーナーでは、各園・学校の取組や様子をお知らせし、地域の学校としての情報発信をしています。地域の皆さんには、様々な取組にご理解とご協力をいただいておりますが、今後とも地域ぐるみで子どもの健全育成に関わってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

神谷小中学校

感動！「第1回神谷発表会」

11月10日、大勢の保護者及び地域の方々の参加のもと、小学校は「努力・協力・全力」、中学校は「協力～未来に向かって踏みだそう～」をテーマにした「第1回神谷発表会」を開催しました。今回初めて保育園児から小中児童生徒全員が参加した発表会では、各学年の趣向を凝らした多様な内容の発表がなされ、満席の会場内の参加者に大きな感動を与えてくれました。子どもたちは、限られた短い時間の中で当日まで一生懸命準備をし、その成果を遺憾なく発揮してくれました。



初めての「小中合同校外学習」

2月22日、小中児童生徒が「小中合同校外学習」で牧野植物園に行ってきました。小学1年生から中学3年生までが各班に分かれ、「フィールドビンゴ」(クイズ形式のウォークラリー)や児童生徒が企画したレクリエーションを楽しみました。また、昼食時には学年の枠を超えたほのぼのとした風景が見られました。卒業を間近に控えた小学6年生や中学3年生にとって良い思い出になったのではないかと思います。



本校が小中一貫校となって、はや1年が過ぎました。この1年は、小中9年間の系統的教育課程のもと、それぞれの子どもの発達段階に応じて、知・徳・体の調和のとれた人間教育を目指して試行錯誤を繰り返した1年でした。「全校ノーチャイム」や「小中縦割掃除」、「小中全校集会」、「小中交流授業」、「保小中なかよし運動会」、「神谷発表会」など、様々な新しい取組にも挑戦してきましたが、子どもたちはそれぞれの場面で大きく成長してくれました。



今後においては、新たなステージに向け、就学前から義務教育9年間の発達段階を見据えた特色ある学校づくりを推進し、地域コミュニティの核となれるような学校づくりを進めていきたいと思っております。

ソケットリフト法とサイナスリフト法

前回、顎の骨量が足りない場合のテクニックの「傾斜埋入インプラント」についてご紹介しました。今回は顎骨(がくこつ)が薄く、傾斜埋入インプラントでも対応できない場合についてです。インプラントは顎骨との結合が絶対条件ですから、顎骨の高さや幅が少ないと埋め込むことができません。このような場合、顎骨を再生または造成して、インプラントをできるだけ深く埋め込み、結合が確実に起こるような状態します。上顎の骨幅が狭いときに行う骨造成術としては、「ソケットリフト法」「サイナスリフト法」があります。上顎の上、鼻の左右の骨内には上顎洞という副鼻腔(ふくびくう)(空洞)があります。上顎の骨幅が狭いとインプラントが上顎洞を突き抜けてしまうため、そのままではインプラントを埋め込むことができません。ソケットリフト法は特殊な器具を用いて充填(じゅうてん)した骨補填材(骨生成剤)と共に上顎洞底部を押し上げ、骨を造成し、骨幅を確保する手術です。もう一つのサイナスリフト法は、上顎洞に頬側側面から直接アプローチするため、より外科的な手術です。

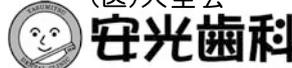
安光歯科 院長 安光 秀人

【有料広告】

詳しくはwww.yasumitsu.netまでの町天王南2-1-1 (サンプラザ西隣)

Tel. 891-6488

(医)大空会



安光歯科

インプラント・矯正歯科

インプラント専用受付電話

Tel. 891-6481

(日曜日無料相談受付中・要予約)